

(様式第1号)

| | |
|-----------------|-------------|
| 研究No. (記載不要) | 17 - デ研 - 1 |
|-----------------|-------------|

平成 17 年度配分 研究成果の概要

| 研究者氏名 (代表者) | 学部名 | 学科名 | 職 | 氏 名 | 共同研究の 場合の分担 |
|-----------------|---------------------------|-------------------|--------------------|----------------------|----------------------|
| 研究名 | プロダクト分野におけるユニバーサルデザイン評価手法 | | | | |
| | 配分を受けた 特別研究費 | | デザイン研究科長特別研究費 | | |
| 研究者氏名 (代表者) | 大学院 デザイン学部 | デザイン研究科 生産造形学科 | 教授 | 三好 泉 | 総括、配慮設計分 析、評価法検討 |
| | 大学院 デザイン学部 | デザイン研究科 空間造形学科 | 教授 | 古瀬 敏 | 設計手法データ収集 および分析 |
| 共同 研究 者 | デザイン学部 | 生産造形学科 | 教授 | 坂本 鐵司 | 会計 身体・運動特性の分 析 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 発表の方法 (予定で可) | ① 紀 要 | | 号 数 | 第 7 号 (07年 3月発行) | |
| | 2 学会等での発表 学会等名: | | 発表日 (発表 予定日) | 平成 年 月 日 | |
| | 3 その他 発表の方法: | | 発表日 (発表 予定日) | 平成 年 月 日 | |

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

ユニバーサルデザイン(UD)は今後の共生社会を実現するための理念として提起されている。実現のためのガイドラインはいくつか提案されているが、ユニバーサルデザイン(UD)製品の評価法は、特にプロダクト分野においては定まっていない。そのことが企業におけるUD製品の開発、ユーザーにおいては購入・使用に関わる適切な製品選択を困難にしており、ひいてはUD製品の開発・普及の阻害要因となっている。また、教育の現場においても、UD製品の評価が明確でないことなどから、デザインに携わる学生の理解が十分得られているとはいえないのが現状である。ここでは、製品の開発意図など開発側の意向を聴取するのではなく、製品そのものの分析からUD性を評価する手法を開発・提案することを目的とした研究を行う。

(研究の実施方法等)

定例研究会および参加教員の分担研究により以下の内容を実施した。

1. UD製品の設計手法及びUD製品配慮設計の整理・分析
内外で提案されているUDに関連した評価手法の収集および配慮設計ポイントについて文献および既存データから収集し整理した。製品評価の多くは「専門家評価」として行われていた。
2. UD製品配慮設計の整理・分析
評価研究の対象製品として、高齢者世帯での使用頻度や製品機能の要素数などを考慮し、事例として家電製品を選定した。評価項目である配慮設計については「標準的配慮」「先進的配慮」に分類し整理を行うこととし、ケーススタディを行った。また、UD製品とされるもののうち代表的なものについては購入し、製品UD分析を行うとともに、フィッティング工房に展示し教育場面での資料として供することとした。
3. 評価関連条件の整理・分析
使用者身体・運動特性については、建築分野、介護分野などの分類を参考に検討したが、製品対応、ユーザーのわかりやすさなどで課題があることから、(株)TOTOにおける日常生活動作分類(坂本作成)とKeates(University of Cambridge)らによる対製品日常動作スコア(出典: Countering design exclusion)を参考にすることとした。
4. UD評価法についての方向性検討
ユーザーの商品選択あるいはUDを学ぶ学生などのUD理解を進めることを中心にした製品のUD性評価法の試案として、カタログ等一般に入手可能な情報によるUD配慮設計スケールを作成し、これをベースにしたユニバーサルデザイン製品評価法試案をまとめた。

(得られた成果等)

1. 一般的にプロダクト分野で行われている「専門家評価」の内容を明確化し、配慮設計要素の分類による評価法の試案を作成した。現段階では、製品分野別の評価法であるが、データの蓄積によりプロダクト分野の汎用的な評価が可能である。詳細は紀要で発表する予定。
2. 評価研究のために購入した「UDとされている製品」(約70点)について配慮設計内容等の情報を抽出・整理した「SUAC UD製品管理カード」を作成し、フィッティング工房で展示するとともに関連授業等で公開・供覧した。